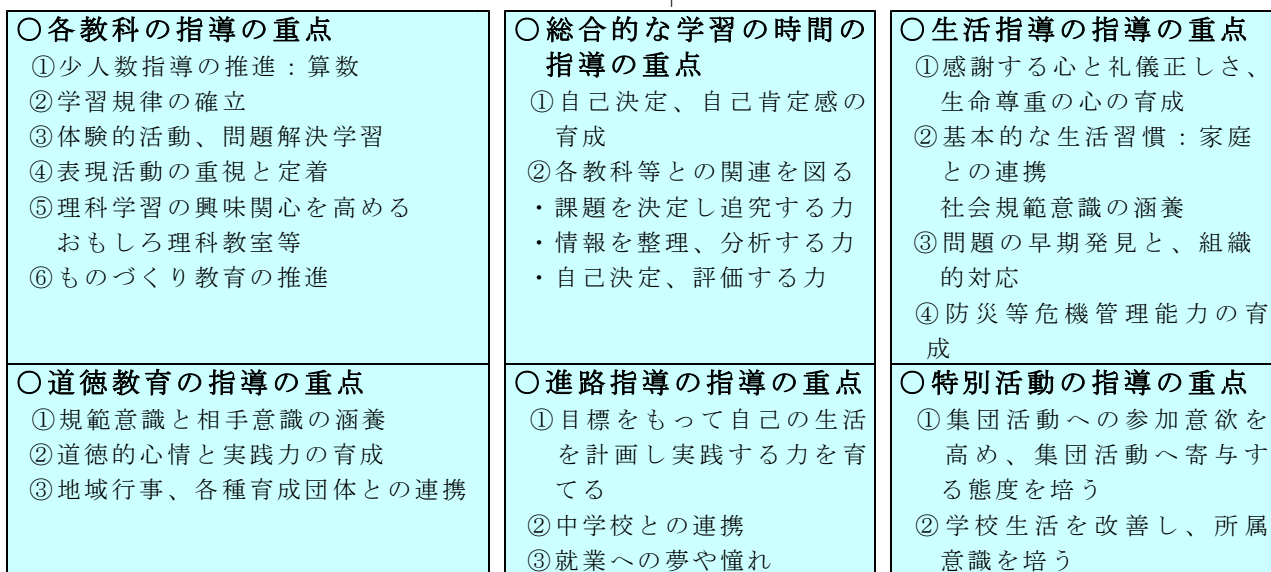
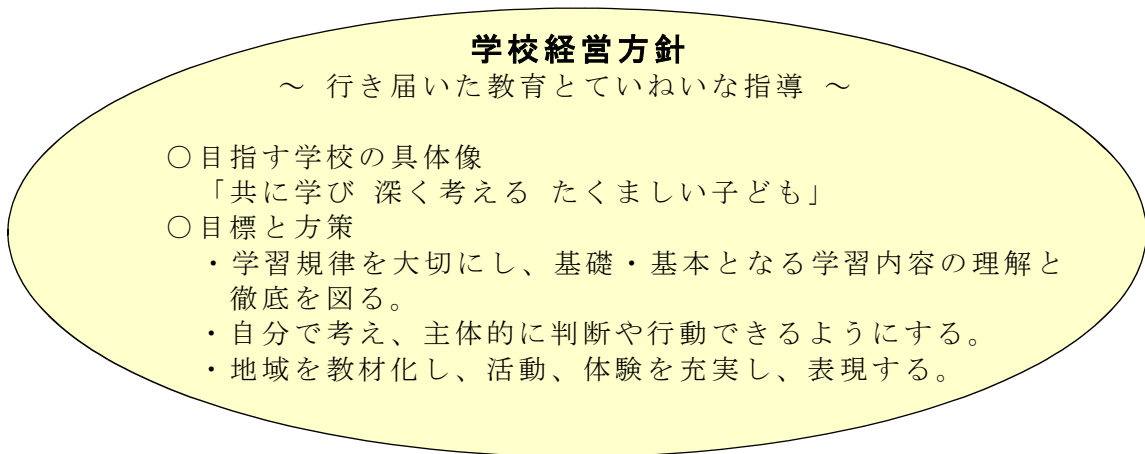
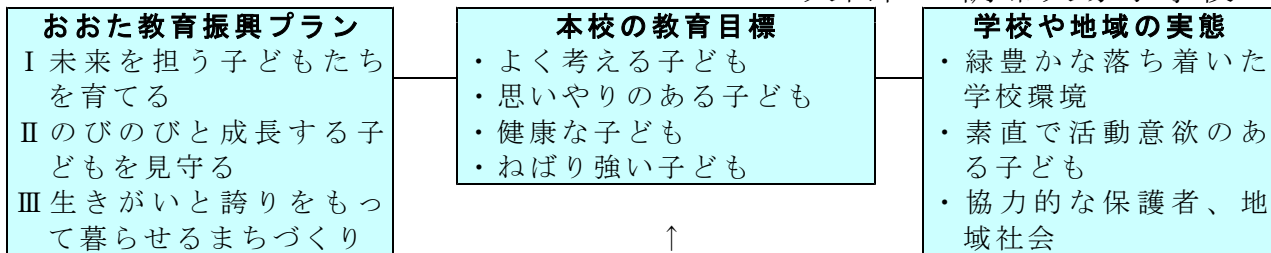


平成23年度授業改善推進プラン 学力向上を図るための全体計画

大田区立調布大塚小学校



本校の授業改善に向けた視点				
指導内容 指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内研究、研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域との連携の工夫
○算数科における少人数指導 ○課題解決学習の推進 ○学校・学年・学級の連携による一貫した指導体制	○授業時数の確保 ○朝読書の時間 ○地域の教材や人材活用	○生活科、総合的な学習の時間、体育で具現化 ○自己決定、肯定感の育成 ○活動、表現の充実、定着	○評価規準の活用 ○児童の自己評価の活用 ○外部評価の充実	○校庭、花壇の整備 ○関係機関との連携 ○授業や行事公開 ○保護者への研究公開

国語科

国語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・学校で策定した推薦図書「これだけは読もう」を活用し、読書活動を推進した結果、児童がいろいろなジャンルの本に触れることができ、国語への関心・意欲・態度が昨年度よりも高まった。
- ・発表する機会を多く設定し、様々な方法で行った結果、話すことに抵抗がなくなり、話すことの数値は昨年と比べて高くなっている。
- ・文章全体の構成を考えて、自分の考えを書くことに力を入れた結果、「書く能力」のポイントが上昇したが、まだ十分とは言えない面もある。

国語科における調査結果の分析

内容別結果の分析

【6年】

- 国語科全体の正答率は期待正答率を8ポイント上回り、おおむね良好だといえる。
- 「書くこと」は9割、「言語事項」8割を超える正答率で良好である。「話すこと・聞くこと」「読むこと」については、期待正答率を4ポイント上回っている。

【5年】

- 国語科全体の正答率が8割を超えて、前年度までの学習状況については、おおむね良好といえる。
- 「言語事項」「書くこと」「話すこと・聞くこと」の正答率は8割を大きく超えているが「読むこと」は7割と少し開きがある。

【4年】

- 国語科全体の正答率は7割と期待正答率を上回っている。
- 「話すこと・聞くこと」は正答率が8割を超え、昨年度より2ポイント上昇している。「書くこと」「読むこと」は期待正答率には達しているが、昨年度とやや開きがある。

観点別結果の分析

【6年】

- 「国語への関心・意欲・態度」「書く能力」「言語」に関しては正答率が8割を超えており、昨年度より2ポイント上昇しており指導の成果が見られる。「話す・聞く能力」「読む能力」については、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえる力を身につけることが課題である。

【5年】

- 「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「言語」は正答率が8割を超え、昨年度よりも大きく上回っている。しかし、「読むこと」については期待正答率を8ポイント上回っているが、昨年度を下回っていた。説明文において、事実と感想、意見などとの関係を押さえ読む力を身につけることが課題である。

【4年】

- 「話す・聞く能力」は正答率が8割と良好で、昨年度をさらに2ポイント上回っている。それに対して、「書く能力」には課題が見られた。相手や目的、意図に応じて書くことのできる基礎的・基本的な学力の定着が課題である。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえながら読む力が十分でない。
→読書活動をさらに充実し、学習に関連した他の本や文章もを読むようにする。読んだ本の内容や感想を紹介する活動を取り入れる。
- 2 説明文の読み取りが十分でない。

- 記録や報告の文章読む機会を増やし、中心となる語や文をとらえ、事実と意見の関係を考えながら文章を読むようにする。必要に応じて図鑑や辞典を活用する。
- 3 目的や意図に応じて書く力が十分でない。
- 書こうとすることの中心を明確にし、段落相互の関係を考えながら、相手に伝わるように書く。書いたものを発表し合い、書きたいことが伝わっているかどうか意見交換をする。

国語科の授業改善策

	身につけたい能力	改善策
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・内容や要旨をとらえながら読む能力を身につけるために。 ・考えたことや伝えたいことを、適切に話したり聞いたりする能力を身につけるために。 ・計画的に話し合う能力を身につけるために。 ・漢字の読み、書きの習熟を図るために。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワードなど重要な部分にサイドラインを引かせ、要旨をまとめるなど具体的な手順を教え、練習を繰り返す。 ・学習方法を工夫し、グループ学習やプレゼンテーションなど発言の機会を多く与え、目的に応じた聞き方、話し方ができるようにする。 ・グループでの話し合い活動では、役割分担を明確にし、教師の準備した話し合いのスタイルに合わせて活動を進めていく。国語の授業だけでなく他教科でも積極的に話し合い活動を取り入れていく。 ・漢字は、反復練習と活用で身につくので、定期的な小テストを行い、間違えた漢字を練習するようにする。家庭学習にも力を入れる。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・話の中心に気をつけて聞く能力を身につけるために。 ・段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身につけるために。 ・漢字の読み、書きの習熟を図るために。 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの共通点や相違点を考えられるようにワークシートを準備し、聞く力を養う。 ・初めのうちは、定型の文章を作成し、初め、中、終わりを意識させて段落の役割を理解させる。文章を書く際には、敬体か常体を統一させて書かせる。 ・毎週漢字テストを行う。習った漢字は必ず使わせるようにする。
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・事柄の順序を考えながら話す能力を身につけるために。 ・大事なことを落とさないように聞く能力を身につけるために。 ・漢字の読み、書きの習熟を図るために。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の生活に密着した身近な話題を「したこと」として取り上げ、日直スピーチを行う。「したこと」を順に話せるように、話す内容を思い浮かべさせる。 ・友だちの話の内容を深めるような質問ができるように、話をしっかり聞かせる。 ・定期的に小テストを行い、未習熟の場合は繰り返し練習させる。

社会科

社会科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・ワークシートやプリントを活用し、作業的な学習をすることで、学習に対する意欲が高まり、そ

の結果が社会事象への関心・意欲・態度の数値に現れていた。

- ・社会科の難しい用語については、覚えるまで確認するよう心がけ、覚えなければいけない事項については、小テストなどをして確認したことが、知識・理解の数値に表れていた。
- ・基礎的資料を活用し、調べたことや考えたことを表現する力は十分についたとは言えない。

社会科における調査結果の分析

内容別結果の分析	<p>【6年】 ○社会科全体として、期待正答率を上回っておりおおむね良好である。 ○「私たちの生活と情報」は9割近い正答率であり、「我が国の工業生産」「私たちの生活と情報」も期待正答率を上回っている。「私たちの国土と環境」にはやや課題が見られた。</p> <p>【5年】 ○社会科全体として、期待正答率を10ポイント上回っており、おおむね良好である。 ○「健康なくらしをささえる」は8割を超える正答率であったが、「地域の人々の生活」にはやや課題が見られた。</p> <p>【4年】 ○社会科全体として、期待正答率にやや開きが見られた。 ○「地域の人々の生産や販売」では、それらの仕事に携わっている人の工夫について考えることなどに課題がある。</p>
	<p>【6年】 ○どの観点も平均しており、大きな落ち込みは見られない、期待正答率もすべて上回っている。</p> <p>【5年】 ○「観察・資料活用の技能・表現」「社会的事象についての知識・理解」は8割近い正答率である。「社会的な事象への関心・意欲・態度」「社会的な思考・判断」期待正答率を5ポイント以上上回っている。</p> <p>【4年】 ○社会科の4つの観点において、期待正答率とやや開きがあった。 ○「観察・資料活用の技能・表現」は、見学したことや調べたことを表現する力に課題がある。</p>

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 資料を参考にして考え、説明することが十分でない。
→地図、グラフ、年表などの資料を参考に考える活動を増やし、分かったことを新聞にまとめたり、説明する機会を多くする。
- 2 資料の読み取りが十分でない。
→地図記号や方位を正しく理解し、日本近郊の海流や、工業地帯の場所を正しく覚えるように、白地図等の作業を通して理解できるようにする。
- 3 目的に応じた資料を選択する力が十分でない。
→社会的事象を具体的に調査する活動を増やし、地図やグラフ年表など基礎的資料から目的に応じた資料が見つけられるようにする。

社会科の授業改善策

身につけたい能力	改善策
・我が国の国土と歴史に対する理解を	・学習方法を身につけさせるとともに、重

高 学 年	<p>図るために。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的資料を効果的に活用し考える力、調べたことを表現する力を育てるために。 	<p>要事項については、まとめてノートに書いたり、復習プリントなどを利用して、理解の定着を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 常に、地図、グラフなど資料を利用して学習を進める。資料から読み取れる事象について、自分で疑問をもったり、発見したりして学習できるよう、気づきの多い資料を提示して考えさせるようにする。 ・ 校外学習、ゲストティーチャーによる授業、体験学習などを積極的に取り入れ、授業の充実を図る。
中 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料を効果的に活用し、地域社会の特色について考える力、考えたことを表現する力を育てるために。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視覚的に学習できる教材を用意をして、地域社会について考える力を養う。 ・ 自分の調べたことや発見したことを発表し合う、意見交換の場を大切にする。 ・ インターネットや本で自ら調べ、資料を集める。また、集めた資料を使って、社会科新聞などにまとめる。

算数科

算数科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・ 習熟度別少人数指導の成果がすべての観点の数値に表れており、昨年同様または昨年以上に高い正答率になった。
- ・ 少人数指導の利点を生かし、いろいろな考え方で問題を解けるよう指導を続け、数量やその関係を言葉、数、式、図、表、グラフなどに表したり読み取ったりすることができるようにしたため、数学的な考え方の正答率が上昇した。
- ・ 習熟度に応じた学習の取り組みで、計算技能は大変高い数値を示しているが、除法の計算については課題が見られた。

算数科における調査結果の分析

内 容 別 結 果 の 分 析	<p>【6年】</p> <p>○算数科全体として正答率が8割を超えており、期待正答率を10ポイント上回っているため、おおむね良好である。</p> <p>○どの領域も期待正答率を超えており、特に「図形」は9割近い正答率で満足できる。「数量関係」は昨年度を2ポイント上回っているが、8割に達するようさらに力を入れたい。</p> <p>【5年】</p> <p>○算数科全体で9割近い正答率で良好である。</p> <p>○どの領域も正答率が8割に達しており、昨年度の正答率を上回っている。特に「数と計算」は9割を超えており、満足できる。</p> <p>【4年】</p> <p>○算数科全体として正答率が8割を超えており、おおむね良好である。</p> <p>○正答率が「数と計算」では8割、「量と測定」では9割と良好であるが、「図形」は課題が見られる。</p>
【6年】	<p>【6年】</p>

観 点 別 結 果 の 分 析	○「数量や図形についての表現・処理」「数量や図形についての知識・理解」は正答率が8割を超え良好である。
	○「算数への関心・意欲・態度」「数学的な考え方」期待正答率を10ポイント以上も上回りおおむね良好である。単位量あたりの大きさを求める問題にはさらに力を入れたい。
	【5年】
	○「算数への関心・意欲・態度」「数量や図形についての表現処理」が9割、「数学的な考え方」「数量や図形についての知識・理解」が8割を超える正答率で、良好である。分度器の中に示された角の大きさを測ることに力を入れたい。
	【4年】
	○「数量や図形についての表現処理」「数量や図形についての知識・理解」は正答率が8割を超え良好である。
	○「数学的な考え方」は期待正答率6ポイントを超えているが、除法を適用して文章問題に合った立式をすることに課題が見られる。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

1	単位量あたりの大きさとその使い方が十分でない。 →単位量あたりの考えを用いて、2つの集団を比べたり全体を量が求める際に、自分で線分図や数直線をかいて考え、立式できるようにする。
2	計算の技能をより確実にする →補習教室等を活用し、簡単な整数の計算から、小数、分数の計算まで段階的に計算問題に取り組み、習熟の不十分な計算を繰り返し練習することにより確実に計算技能を身につける。特に除法には力を入れる。
3	算数用具の使い方の習熟が十分でない。 →三角定規、分度器、コンパスなどの使い方の習熟を図り、正しく線や円をかいたり、角の大きさを測ることができるようにする。

算数科の授業改善策

	身につけたい能力	改善策
高 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的な考え方を育成するために。 ・計算技能を確実にするために。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図や式、文章を使って問題解決の道筋を説明させる経験を多くもたせる。 ・既習内容を生かし、自ら考え問題を解く時間を取り入れる。また、児童同士で考えを発表し、意見交換をする時間をもつ。 ・文章問題をしっかり読み、内容を理解することができるよう指導する。 ・算数の法則など既習事項から発見し、計算の仕方などもその意味や仕組みから考えさせる。 ・苦手意識をもたせないように、児童一人一人に合わせた指導をしていく。
中 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的な考え方を育成するために。 ・計算技能を確実にするために。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のはじめなどに問題解決型の授業を取り入れて自分の考えを表現し、友達の考えと比べてその違いや良さに気づかせる。 ・提示された問題をよく読むようにさせる。 ・問題を解き終わったあとに、見直しすることを徹底する。また、算数ステップアップ学習用プリントを活用し習熟度合いを確

低 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図形の作図の習熟を図るために。 	<p>認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 間違えないように繰り返し計算をさせる。授業中に習熟が不十分だった児童は、放課後の補習教室で、定着を図る。 ・ 正確にかけるようになるまで、繰り返し練習させる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学的な考え方を育成するために。 ・ 計算技能を確実にするために。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章をしっかりと読み、ポイントとなる言葉に着目させ計算方法を考えさせる。 ・ 具体物や半具体物を使った操作やゲームを取り入れ、楽しく理解できるようにする。 ・ 半具体物（タイル図）を用いて、計算の仕組みを目に見えるようにしていく。 ・ 反復練習に取り組みさせる。

理科

理科における昨年度の授業改善推進プランの検証

<p>取り組みにおける成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 観察や実験のねらいが児童にしっかり理解できるように、導入の方法などを工夫した結果、興味をもって取り組むようになり、関心・意欲・態度の数値に表れている。 ・ 自然の事物・現象に親しむ中から問題を見だし、予想や仮説の基に観察・実験を行った結果、科学的な思考の数値が上昇した。 ・ 観察・実験後のまとめの時間が十分に確保できず、確かな知識として身につけることは十分といえない。

理科における調査結果の分析

内 容 別 結 果 の 分 析	<p>【6年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 理科全体として期待正答率に達している。 ○ 「生物とその環境」「物質とエネルギー」は期待正答率は超えているが、「地球と宇宙」には、やや課題が見られた。 <p>【5年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 理科全体として期待正答率を7ポイント上回っている。 ○ 「生物とその環境」は9割近い正答率で、おおむね満足できる。「環境とエネルギー」「地球と宇宙」も期待正答率5ポイント以上上回っている <p>【4年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 理科全体として期待正答率に達している。 ○ 「物質とエネルギー」「地球と宇宙」は期待正答率を上回ったが、「生物とその環境」にはやや課題が見られた。
観 点 別 結 果 の 分 析	<p>【6年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「自然事象への関心・意欲・態度」「科学的な思考」「自然事象についての知識・理解」については期待正答率に達している。「観察・実験の技能・表現」は雲の動きや天気図などをもとに、天気の変化について予測することに課題が見られた。 <p>【5年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「自然事象への関心・意欲・態度」は正答率が8割を超え「科学的な思考」「自然事象についての知識・理解」については期待正答率に達している。「観察・実験の技能・表現」は温度計の正しい使い方について課題が見られた。 <p>【4年】</p>

○「科学的な思考」については期待正答率に達している。「観察・実験の技能・表現」の身近な動物や植物を探したり、育てたりして、成長の過程や体のつくりを調べることに課題が見られた。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 観察したり、実験したりしたことをもとに予測することが十分でない。
→観察を定期的に行うことや実験の途中の変化に目を向けることにより、この先どうなるかを予測できるようにする。
- 2 観察道具や実験器具の使い方の習得が十分でない。
→実験・観察の道具や器具の正しい使い方が習得できるよう。グループではなく一人一人が必ず操作できるようにする。
- 3 観察・実験したことを知識として身につけることが十分でない。
→問題解決型の学習を多く取り入れ、分かったことをまとめ、表現し、さらに、発展させて観察や実験することにより、知識として身につけるようにする。

理科の授業改善策

	身につけたい能力	改善策
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力を育てるために。 ・科学的な見方や考え方を養うために。 ・自然の事物・現象についての理解を図るために。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察のねらいが児童にしっかり理解できるように、導入の指導などを工夫し、興味をもたせる。 ・実験カードを利用して、実験の目的や揃える条件を整理しながら実験活動に取り組みせ、自分の言葉で分かったことをまとめさせる。 ・予想→結果→考察の学習の流れを身に付けさせ、それに合わせてノートの記録の仕方を工夫させる。何のために行っている実験観察か目的意識をはっきりさせる。 ・理科の用語や変化の表し方などが明確になるように指導する。 ・学習に必要な既習事項が身についているかどうか単元導入時に確認する。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力を育てるために。 ・自然の事物・現象についての理解を図るために。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験は、予想・理由・実験・結果・まとめという流れを確立し、想像力を育てる。 ・観察の際は十分な時間をとり、興味・関心をもって追究する活動を取り入れる。 ・観察記録は五感をつかって書くように指導する。絵は観察するものの全体と、特に大きくかきたい部分をかかせ、詳しくかくことを指導する。 実験したことをノートやワークシートでまとめる。初めのうちは、ワークシートを活用して書き方の定着を図り、時期をみてノートに移行し、学習の理解を深める。

調査をしていない教科の改善策

生活科

生活科の授業改善策

	身につけたい能力	改善策
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と身近な人々とのかかわりに関心をもつために。 ・自分と身近な動物や植物などの自然とのかかわりに関心をもつために。 ・気づいたことや楽しかったことなどについて、表現することができるようにするために。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の周りの町探検で、町や自然への興味関心をもたせる。 ・作業や見学及び観察の計画時に、意欲を高められるように資料等の提示を工夫する。 ・野菜の栽培、学校の植物の利用、小動物とのふれあい、観察やネイチャーゲームなどを取り入れ、自然の美しさや不思議に気づかせる ・調べたり観察したりする視点を明確にして、わかやすく表現できるように、まとめ方の工夫をさせていく。 ・スケッチのポイントを具体的に話し、どの部分に着目して観察するかを事前に詳しく指導する。

音楽科

音楽科の授業改善策

	身につけたい能力	改善策
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・中学年で身に付けた音楽的な技能や感覚を生かし、自分なりに総合的に考え表現できるようにするために。 ・音と音とが豊かに響き合う体験をするために。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の楽曲に対するとらえ方を大切にし、その考えを表出できるよう、グループ活動の場を設ける。 ・これまでの学習を総合的に生かした上で、ハーモニーを意識できるように、編曲を工夫したり、重奏、合奏、合唱奏を多く取り入れたりする。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年で身に付けた基礎的な能力を生かし、自分なりの考えをもって、進んで表現できるようにするために。 ・リコーダーの基本的な奏法の習得や重奏・合奏歌唱と一体となった演奏を楽しむために。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム、強弱、速度、音色など楽曲を特徴づけている諸要素に対する感性を高め、美しい音色や演奏方法を自分なりに見つけられるよう、その動機づけとして模範演奏を聴いたり、同年代の演奏を聴いたりする機会設ける。まず、模倣することから始め、表現することへの抵抗感を減らす。 ・児童が表現したことを温かく受容し、表現する喜びを味わわせる。 ・リコーダーの初期は、单元ごとに、個別に習得状況を見取る機会をつくり、「合格、もう少しシール」を活用し、基本的な奏法を徹底する。
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に対して、興味や関心をもち、楽しく表現できるようにするために。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムを自然に感じる事が出来るよう、身体表現をしながら歌ったり聴いたりする活動を取り入れる。 ・様々な場面で、手拍子や簡易打楽器を活用し、拍感をつかませる。

<ul style="list-style-type: none"> ・身体表現なども活用しながら、リズムに対する感覚を養うために。 	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年の内から、リズムに慣れたり、音の高さの意識をもたせたりできるよう、常時活動にフラッシュカードを用いる。
---	---

図工科

図工科の授業改善策

	身につけたい能力	改善策
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の発想や考えをしっかりと打ち出し、表現することができるために。 ・危険を伴う機械や材料を安全に使用できるようにするために。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の児童が今まで培った発想力や、技術を発揮できるよう教材を精選する。 ・対象物をよく見て描く教材や、一気に描き上げる等、タイプの違う作品に取り組みせることで、高学年の発想や表現を支援するような授業展開を工夫する。 ・危険を伴う電動のこぎり等の機械を指導後、友達同士で教え合う機会を設け、一人一人の道具に対する意識を高め、安全に使用できるようにする。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な教材を体験し、進んで表現し、深める態度を育てるために。 ・鑑賞の能力を育てるために。 ・危険を伴う機械や材料を安全に使えるようにするために。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な教材を体験させ、多種の発想を促し、個々の児童が様々な表現をできるよう教材を精選する。 ・教材に関連した身近な作品を授業に取り入れ、自分の作品の参考にしたり、関心をもって作品をみることにつなげる。 ・授業の最初に指導をし、練習時間を設定することでけがを予防する。
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な表現方法を体験し、体全体を使って制作するために。 ・鑑賞の能力を育てるために。 ・身近にある道具や材料を安全に、場に応じて使うために。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の児童が体全体を使って楽しく表現活動ができるよう、教材を精選する。 ・材料等を選択させ、児童の個性を引き出す。 ・互いの作品を見る時間をつくり、表現方法の違いやその良さに気づくようにする。また、そのときの子どもの言葉での表現を大切にする。 ・身近な道具の使用説明や繰り返しの指導を徹底し、安全な使い方を習得させる。危険な例をあげ、互いに注意できるようにする。

家庭科

家庭科の授業改善策

	身につけたい能力	改善策
高学	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭生活をよりよくしようとする実践力な態度を育てるために。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常に生かせるように、基礎的な実習を行う。 ・学校で学習した料理を、家庭で作ってみ

年	○日常生活に必要な基礎的・基本的な技能を身に付けるために。	ようと投げかけ、その感想を保護者にも書いてもらうなど、学習したことを家庭生活で生かそうとする態度を育てる。 ・個別指導の時間を多く取り、一人一人が習得できるようにする。特にミシンには全員が使用し技能を習得できるようにする。
---	-------------------------------	--

体育科

体育科の授業改善策

	身につけたい能力	改善策
高 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技能を身に付け、体力を高めるために。 ・協力、公正などの態度を育てるために。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にあった課題を見つけ、技能の段階にあったアドバイスや練習方法を指導するようにする。 ・授業では、柔軟性を高める運動を取り入れる。器械運動の授業では、児童の恐怖心を取り除き、自分のできそうな技から挑戦させるようにする。 ・学習カードを利用し、めあてをしっかりとさせる。それぞれのめあてに合わせた場を設定する。 ・集団行動をしっかりと行い、規律を守らせる。 ・ゲームではルールをしっかりと説明し、守らせる。
中 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技能を身に付け、体力を高めるために。 ・協力、公正などの態度を育てるために。 	<ul style="list-style-type: none"> ・縄とびや持久走は、よいこの手帳や学習カードを用いて児童に課題を設定させる。あまり、記録が伸びない児童に対しては、個別に指導する。 ・体づくり運動で、みんながかかわりあったりするための手軽な運動や律動的な運動を取り入れる。 ・基本的な動きや技能、ルールを徹底させた後、ボールゲームなどでのチーム戦を行い、工夫して活動できるようにする。協力することの大切さに気づかせる。 ・整列や体操など、教師が模範となり、児童一人一人の姿勢や態度に気を配る。また、集団行動をすることの大切さに気づかせる。
低 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技能を身に付け、体力を高めるために。 ・集団行動ができるようにするために。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動を取り入れ、教え合い、学び合う中で、運動のコツをつかみ、運動する楽しさを味わうようにさせる。 ・整列、移動などは繰り返して行い、素早くできるように身につけさせる。